

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10227001				
授業名	コミュニケーション心理学	形態	講義	単位	2
担当教員	大橋 靖史				
開講学期	2018年度 前学期	曜日・時限	火曜1限		
授業目的	「こころ」の問題は、個体内部を越え、人と人との関係のあり方の問題へと展開していく。本講義では、具体的なコミュニケーションの分析をとおして、さまざまな心理学の分野においてコミュニケーションが重要な概念であることを理解することを目指す。				
授業内容	取調室や法廷内におけるコミュニケーションに問題があったいくつかの事例を導入部として、授業を展開していく。各事例において、コミュニケーションの不全がいかなる問題を生じていったかを分析するとともに、そうしたコミュニケーションの分析が、認知心理学、臨床心理学、発達心理学、人格心理学といった分野における考え方とどのようにかかわっているかを明らかにする。こうした分析と考察をとおして、「こころ」とコミュニケーションの関係について検討する。				
到達目標	「こころ」とコミュニケーションの関係について理解する。 さまざまな心理学とコミュニケーションの関係について理解する。 コミュニケーションの分析がもつ意味について考える。				
ディプロマポリシーとの関連性	<心DP2-(2)> 人間が社会生活や職業生活で直面する諸課題を、一般心理学及び臨床心理学、発達心理学、社会心理学の観点から総合的に理解して、その理解を課題の解決のために活用する意欲や能力を身に付けている。				
授業形態	授業は基本的に講義形式で行われるが、一部、ディスカッションをおこなうなどアクティブラーニングの手法を活用して、双方向的な授業形態も取り入れる。講義の中ではビデオなどの視聴覚教材を適宜利用する。また、毎回授業の最後にリアクションペーパーの提出を課し、自らの意見や感想をまとめるといった作業も取り入れる。				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。 合計15回の授業で、事前事後学習合計60時間となる。				
テキスト	大橋靖史・森直久・高木光太郎・松島恵介著『心理学者、裁判と出会う』（北大路書房、2002年）				
評価方法	授業参加、事前事後学習の提出課題、試験、および、各時間終了時に提出するリアクションペーパーによって総合的に評価する。				
評価基準	授業参加（リアクションペーパー） 30点、提出課題評価 30点、授業内試験 40点				
試験・レポート等のフィードバック	各回のリアクションペーパーについては、次回の授業において配布し、解説を加える。 提出課題については、採点后に講評・解説を行う。 授業内試験の結果については、授業内において講評・解説を行う。				
注意事項及び履修条件	予習、復習を欠かさないこと。				
S : 100～90、A : 89～80、B : 79～70、C : 69～60、D : 60未満					
第1回					
事前学習	テキスト全体にざっと目をとおし、コミュニケーションに関わりがあるトピックを書き出しておく。特に、1章2節（特に(3)）と終章（特に4節と5節）を読み、社会構成主義について理解しておく。				
授業内容	オリエンテーション。授業の進め方について説明したうえで、授業が目指す考え方について、コミュニケーションをどのように捉えてゆけばよいかについて検討する。特に、従来の心理学と人と人との社会におけるやり取りを重視するディスカッション心理学との違いなどについて検討する。				
事後学習	授業内で紹介したコミュニケーションにあてはまる実際の例について考えるとともに、ディスカッション心理学とはどのような学問か、テキストや参考文献を用い、調べまとめる。				
参考文献	鈴木聡志・大橋靖史・能智正博編著『ディスコースの心理学』（ミネルヴァ書房）				
第2回					
事前学習	テキストの4章1節を読み、甲山事件とはどのような事件だったのか、大まかに理解しておく。				
授業内容	甲山事件の概要と、この事件が抱えていた心理学的な諸問題について理解する。特に、従来の心理学において重要な位置を占めてきた能力論の問題について検討する。				
事後学習	園児証言の問題を能力論の立場のみから見るのが抱える問題点について、調べまとめる。				
参考文献	テキスト4章末尾に挙げたリストを参照のこと。				
第3回					
事前学習	テキスト4章2節から4節を読み、具体的な分析のやり方と考え方に目をとおしておく。				

授業内容	甲山事件における園児供述の具体的な分析を紹介する。特に、尋問者と園児との間でどのようなやり取りがなされていたかを、動的スキーマという考えから検討する。
事後学習	動的スキーマという考え方について調べ、自分自身のことばでまとめる。
参考文献	
第4回	
事前学習	心理学概論等で習った「記憶」の考え方について、復習しておく。
授業内容	前回の分析を発展させ、認知心理学における記憶の問題を、コミュニケーションの視点から再考する。特に、フレデリック・C・パートレットの想起論に着目する。
事後学習	パートレットの想起の考え方と甲山事件のコミュニケーション分析の考え方の類似点と相違点について、調べまとめる。
参考文献	F・C・パートレット著、宇津木保・辻正三訳『想起の心理学』（誠信書房）
第5回	
事前学習	テキスト5章1節から3節までを読み、事件と問題点について理解しておく。
授業内容	福井女子中学生殺人事件の概要と、この事件が抱えていた心理学的な諸問題について理解する。特に、巧みな話者が語る「事実」としての物語の問題について検討する。
事後学習	取調べにおいて、巧みな話者が語る物語が抱える問題について、調べまとめる。
参考文献	テキスト5章末尾に挙げたリストを参照のこと。
第6回	
事前学習	テキスト5章4節から8節を読み、具体的な分析のやり方と考え方に目をとめておく。
授業内容	福井女子中学生殺人事件における目撃証人供述の具体的な分析を紹介する。特に、語ることが巧みな証人が「事実」としての物語をどのように発生させたか、そのプロセスについて検討する。
事後学習	供述の分析がうまくゆかなかった理由について、「事実」としての物語という観点から、調べまとめる。
参考文献	
第7回	
事前学習	事前に配布予定の家族療法や物語療法に関する資料に目を通し、おおまかに理解しておく。
授業内容	前回の分析を発展させ、臨床心理学におけるセラピストとクライアントの関係や物語の果たす意味について検討する。特に、家族療法や物語療法について考える。
事後学習	コミュニケーションという視点から、家族療法や物語療法の特徴について、調べまとめる。
参考文献	配布予定の資料。
第8回	
事前学習	事前に配布予定の野田事件に関する資料を読み、事件とその後の経過について大まかに理解しておく。
授業内容	野田事件の概要と、この事件が抱えていた心理学的な諸問題について理解する。特に、過去の出来事について語ることが苦手な人の問題について検討する。
事後学習	実際のやり取りを文字起こしした資料を読み込み、具体的な問題点について、調べまとめる。
参考文献	配布予定の資料。
第9回	
事前学習	事前に配布予定のやり取りに関する資料に目を通し、やり取りの問題点を書き出しておく。
授業内容	野田事件における自白の分析を紹介する。特に、比較的重度な知的障がい者と取調官の間でどのようなやり取りがおこなわれていたかを、共同参照という考えから検討する。
事後学習	どのような場合に、尋問者と被尋問者の間で共同参照が難しいか、調べまとめる。
参考文献	配布予定の資料。
第10回	
事前学習	発達心理学の概論書やweb等を利用して、三項関係や共同注意の意味を大まかに理解しておく。
授業内容	前回の分析を発展させ、発達心理学における三項関係や共同注意の問題を、考えてみる。更には、自閉症や心の理論といったことについても検討する。
事後学習	三項関係、共同注意や共同参照が成立しないとき、どのような問題が生じるかについて、調べまとめる。
参考文献	
第11回	
事前学習	テキストの6章1節を読み、尼崎スナック狙撃事件とはどのような事件だったのか、大まかに理解しておく。

授業内容	尼崎スナック狙撃事件の概要と、この事件が抱えていた心理学的な諸問題について理解する。特に、その人の人格から供述の信用性について判断することの問題点について検討する。
事後学習	日ごろの生活のなかで、ある人の人格からその人の行動の特徴について判断することの利点と欠点について、思い浮かべまとめる。
参考文献	

第12回	
事前学習	テキスト6章2節から4節を読み、具体的な分析のやり方と考え方に目をとおしておく。
授業内容	尼崎スナック狙撃事件における暴力団構成員の供述の分析を紹介する。特に、尋問者と被尋問者との間のやり取りにおける両者の関係について検討する。
事後学習	日ごろの生活のなかで、問われる人によってコミュニケーションがコントロールされている場面を思い浮かべ、まとめる。
参考文献	

第13回	
事前学習	心理学概論等で習った「性格や人格」の考え方について、復習しておく。
授業内容	前回の分析を発展させ、人格心理学における人格と行為との関係について、コミュニケーションの視点から再考する。
事後学習	その人らしさについて、「状況」や「コミュニケーション」といった概念を用いて、説明する。更に、これまで授業において学んだことを、文章に表すことができるよう復習を行っておく。
参考文献	

第14回	
事前学習	これまでの授業を振り返り疑問点をノートにまとめておく。また、事前事後学習の提出課題などの提出物を点検しておく。
授業内容	授業内試験を通して、これまでのコミュニケーション心理学の授業内容を振り返り、要点を整理する。また、授業内試験後の質疑を通じ、疑問を解消するとともに、理解を更に深めてゆく。
事後学習	授業内試験を振り返り、授業理解度について自己点検を行う。
参考文献	

第15回	
事前学習	テキストの終章を読み、コミュニケーション心理学の研究手法と実践方法について理解しておく。
授業内容	前回の授業内試験の解説や講評を通して、コミュニケーション心理学の授業内容について自分自身がどの程度理解しているかについて振り返る。更に、コミュニケーション心理学を学んだことを、これからどのように活かすことができるかについて考える。
事後学習	15回の授業全体を振り返り、どのようなことを学ぶことができ、この学びを今後どのように活かしていくことができるかについて考える。
参考文献	鈴木聡志・大橋靖史・能智正博編著『ディスコースの心理学』（ミネルヴァ書房）

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p>&lt;心DP-2&gt; 【心理学分野における知識・技能・態度】 対人援助場面を含む多様な社会状況で活かすことのできる心理学及び人間科学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、人間が直面する諸課題の解決のために活用する意欲・能力を身に付けている。</p> <p>&lt;心DP2-（1）&gt; 自己理解、他者理解、人間関係についての理解をもたらし心理学及び人間科学の基本的かつ体系的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;心DP2-（2）&gt; 人間が社会生活や職業生活で直面する諸課題を、一般心理学及び臨床心理学、発達心理学、社会心理学の観点から総合的に理解して、その理解を課題の解決のために活用する意欲や能力を身に付けている。</p> <p>&lt;心DP2-（3）&gt; 心理学及び人間科学に関する諸理論を用いて、人間の行動に関する新たなアイデアを創出し、それについて科学的・実証的に説明する能力を身につけている。</p>
-----------	---